

**同窓会会報**  
第37号

昭和60年12月10日  
発行所  
茨城県東茨城郡  
内原町鯉淵5965  
**鯉淵学園同窓会**  
☎319-03 TEL.0292-59-2811  
振替口座 宇都宮3-1632番  
印刷所  
佐藤印刷株式会社

## 四十年記念募金の達成と

### 学園協会の健全運営

同窓会長 和田文雄

#### 四十年記念事業について

五十八年十一月の第十六回同窓大会は、同窓会にとってはまさに四十年の記念すべき大会でありましたが、そのとき決議された四十年記念事業の進捗状況については、

第一に、日立市小木津山に三・三haの松、杉の植木が終了しました。現地は小さな沢に沿って南西に面した傾斜地ですが、伐採時の状況からかなりの好適地と見られます。

第二は学園内に記念保存すべき建物の保全については、取敢ず学園が屋根瓦の補修などを行い、総合教育棟の完成(十二月末)をまって内部の改修を行うこととしております。

第三に学園寮史の編集については、年表の整理が終り、これから各年代ご

との事歴の記述に入ることとなりました。

さて、記念事業への募金については別掲のとおりであり、その目標にほど近い現状ですが、年内には茨城、東京など多くの卒業生のおられる支部が支部総会を開く予定があることまた、全国各支部が年末からお正月にかけての支部総会を予定していることから目標到達は目前にあるものといえます。

そこで、いくつかの質問もありますのでお答えしてみたいと思います。その一は同窓会が行う育林事業についてであります。それは、こうしたことは同窓会が行うべきでない。伐採までの費用はどうするのか、学園教育と林業実習と一致させて行うべきであるなどです。

当時の吉川学園長は学園の教育とし

て参加し、担当に教授を配置すると約束しています。撫育の費用は来年度以降年二十万円、八年目と十五年目がそれぞれ四十万円程ですが伐採時までの合計が約百八十万円程となる見込ですが、これは、募金目標額の六〇程であり目標が達成されれば多大の負担とはなりません。しかし、また一般会計への負担をかけることなどのないよう特別の努力をすることとします。ではなぜ育林事業を行うかということです。

現在の農民教育協会は全国農業会高等農事講習所時代から東部、西部、高原の三講習所と鯉淵の広大な土地を引継ぎましたが、酪農場の一部を除いてすべて売りつくし、食いつぶしてしまいました木を植えることはこの正反對であり、教育は百年、二百年、人類続かきりのものですから、学園の後輩への完全な教育と国土を保全する義務をもった農業者の努めの一つであります。すぐ隣接地には慶応義塾創立一二五周年を記念して慶応O・Bが、福沢記念育林会をつくり二十haの植林を行っていただきます。これを見てもわかるように、わが同窓会が行うゆえんも理解いただけるものと思えます。

その二は記念建物の保存であります。学園にはいわゆる立派な建物はあまりありません。しかし最近コンクリートの教室が増えてきています。その中で創立以来学生と親しんできた象徴的な建物が図書館両翼の木造の事務室と

小講堂であり、来賓宿舎です。これらは、永久保存をすることとして、学園ともども保存することになっていきます。その補修をすることです。鉄動コンクリートの教室を記念事業でつくったとき当時の学園長が「教育は建物ではない」といいましたが、まさにその通りで木造であれ、古びていても、そこに伝統をまもり真の教育を見つけ出さなくてはならないといえます。

その三は、寮史です。寮史は同窓会史そのものですが、また寮生活Ⅱ学生生活でもあります各人それぞれの感懐をこめて寄稿して下さい。また寮史の中に編をおこして同窓会史部分を収録することとしていますが、あるいは同窓会史だけでも一巻を必要とすることも考えられます。

#### 学園の現状と協会の理事会

同窓会長として教育協会の理事となっておりませんが、本年七月十七日の理事会で全国農協中央会岩持会長が就任後をはじめ出席され挨拶されましたので、全国各地の同窓会から寄せられていた感謝の気持とこれから会長としてのご努力をお願いしました。

同窓会報第三四号の六頁で「学生炊事の運営軌道に乗る」また五頁に「鯉淵学園「普及専修科設置計画案」農林省に提出」を去る三月二十日付で行ったこの記事がありますが、二つの問題があります。それは全寮制でありなが

ら給食が行われなかったこと、三月二十日は五十九年ではなく五十八年に行われるべきものであったこととあります。こうしたことをふまえ理事会におきまして、問題点と改善点を提起しました。

【問題点】

①全寮制を標榜しながら給食が完全に行われていないこと。

②農林水産省が都道府県庁に対し六十年四月に出発を示唆していた、普及員受験資格取得コースの免状が農林水産省の期待にそむき一ヶ年遅延したこと、これは同窓会と同窓生の期待にも反したこと。

③人事院が改正をした国家公務員採用Ⅲ種試験の受験資格を喪失したこと  
また、この追加指定にあたっては、学園は行動をおこさず結局、同窓生の努力で受験資格の指定を受けたこと。

④農林水産省の助成による教室の建築にあたって農林水産省から特段の強い指導をうけたこと。

【改善点】

①農林教育協会は理事及び理事会として責任をはたせる運営を行えるようにすること。

②そのために、学園及び研修所においてある常務理事を擁護する専務理事をおき運営にあたること。専務理事は農協団体から選任すること。

③農林教育協会に多大の助成・援助を

行っている農林水産省及び農協団体から、会長、理事長が選任されるようすること。

などありますが、協会初期の執行体制は、東畑会長、湯河理事長（農林中央金庫理事長）、勝賀瀬常務理事（全販連常務）、小出学園長、鞍田副学園長、東部、西部、高原の各講習所長、池田事務局長（現理事長兼学園長）で構成されていきました。その後湯河理事長の死去のあとは山添元農林事務次官が理事長にいられたが、勝賀瀬常務理事のあと農協団体からは役付理事は選任されていませんでした。

岩持全中会長の会長就任で、学生募集、就職、助成等全国各地からの安堵と期待の声にあらわれたように、これからの、学園や学生、同窓生にとって心強いものとなるよう教育協会の健全な運営をはかり、執行体制の強化をはかってゆきたいと思っています。

以上、四十年記念事業と学園、協会のことどもにふれましたが、当面する募金目標の達成に会員各位と各都道府県支部の役員の方々に、もう一度ご努力をお願いする次第であります。



分収林に建てられた校舎

## 四十年記念事業募金の継続と 同窓会大会の開催延期を決定

去る十月十二日、常任委員会を開催して、四十年記念事業と第十七回同窓会大会の開催について協議いたしました結果、記念事業を形あるものにするため募金を来年三月末まで継続することとし、このこととの関連で、十一月に開催予定でありました同窓会大会を来年四月十九日に延期して開催することに決めました。

ここに報告申し上げ、ご了承とご協力をお願いする次第です。  
尚、大会の開催事項については、決定次第支部を通じてご連絡申し上げます。  
同窓会事務局



日立市小木津の本会分収林地

### 期別募金状況

期	人数	金額	期	人数	金額
1	11	138,000	25	6	60,000
2	40	613,270	26	2	30,000
3	16	249,000	27	7	70,000
4	24	360,000	28	3	33,000
5	24	330,000	29	6	63,000
6	5	70,000	30	4	40,000
7	16	213,000	31	3	30,000
8	11	120,000	32	3	30,000
9	23	340,000	33	2	20,000
10	6	130,000	34	3	30,000
11	10	250,000	35	2	20,000
12	5	50,000	36	6	60,000
13	11	120,000	37	3	40,000
14	10	100,000	38	11	110,000
15	5	50,000	39	2	20,000
16	6	60,000			
17	9	90,000	通1	2	20,000
18	6	63,000	+ 2	1	10,000
19	7	90,000	+ 3	2	30,000
20	7	70,000	+ 4	2	20,000
21	6	70,000	+ 5	1	10,000
22	7	65,000			
23	13	173,000	合計	357	4,640,270
24	8	80,000			

ら二カ月間、絶大なる皆様のご支援、ご協力によって、快調に経過し、二月二十日(木)のノ切日までは、悠々と目標を突破できますよう、只暫念じております。重ねて、何とぞよろしくお願い致します。

末筆になりましたが、皆様の一そうのご健康とご多幸をお祈り申しあげます。(60・11・22)

## 鯉淵学園と

### 他の教育機関の 履習時間等の比較

普及専攻科の設置にあたって、一年間の授業時間数は二二〇〇時間、本科三年を加えて、総計四八〇〇時間が用意されています。単位数では二三〇単位前後になります。四年制大学の卒業要件単位数は二二四単位ですから、学生一人一人は一六〇、一八〇単位の履習が適正かと、園芸・丸川主任教授・畜産・砂田主任教授と慎重検討中です。

## 紹介

### 川柳へぼ胡瓜

上は単位下は体で叙熱受け  
金がないくせいで話は打ち切られ

前句は昨年の五月六日付、後句は今年四月三十日付の朝日せんりゅう(朝日新聞・全国版)掲載の石橋幸雄先生の名句です。ご周知の通り、先生は農業経営学の権威、川柳を嗜んでおられるとはつい先頃まで存じ上げませんでした。

昨日、先生は、これまでにお作りになったものの中から、二〇〇首ほどを選んで、六〇頁余り、細色の清麗な四六版にされて、お持ちになりました。一読して、私だけ悦に入るのは大へん

## 今井勇衆議院農林水産委員長

### 学園を視察される

衆議院の今井勇農林水産委員長、愛媛第三区選出は去る三月十三日学園を視察された。

今井委員長は、学園長室にて学園長はじめ各科主任教授から学園の教育方針及び現在の説明をうけたあとゴム長靴にはさかえ、和田同窓会長の先導で酪農場、園芸農場、女子学生寮、食堂等約二時にわたって学園を視察された。特に西村教授のイチゴの無菌培養が早に研究室にとどまらず農家への普及が行われ培養地に顕彰の記念碑が建立され農家のイチゴ栽培と経営に多大の利益をもたらしていることに感動された。東京からは、農林水産省普及教育課高梨穂穂補佐と、元日本青年団協議会

勿体なく、無理をお願いして、ご希望の方に頒布していただくことに致しました。先生は、無料でと申されますが、それも参りませんから、実費(〇〇〇〇円・含郵送料)を送って下さい。先生は今年八十才、大へんお元気で、内原のお住いから、自転車で、時々お見えになります。今月末には東京近在の古い?特研生、先生ご夫妻をお招きして、祝賀パーティーを計画しております。(11・22・西村典夫)

委員長の権輔典氏が同行された。

今井勇衆議院農林水産委員長の  
経歴

- 東京大学土木工学科卒業
- 昭和四十七年から衆議院議員に  
五回連続して当選。
- 五十二年農林政務次官
- 五十九年農林水産委員長
- 愛媛第三区選出

写真は右から木下園芸農場長、吉川学園長、和田同窓会長、今井勇農林水産委員長、高梨普及教育課穂穂補佐  
(トワトヒニールハウス内)



### 四期生会の計画進む

四期生の卒業は、昭和二十四年三月、卒業年月から数えれば少々半端であるが、昭和二十一年四月の入学を起点にすれば、米年の四月が正しく四十年！二十年か三十年も前に、一度寄合った記憶があるが、その後は三々五々で、昨年あたりから、みんな集ろうじやないか、という声が続く。今年に入って更にその機運が高まり、来年四月の同窓会大会(四月一九日・二十日)に重ねての計画が固りつつある。目下、茨城、東京など、近在の有志で具体案を練っており、新年早々には、四期生会開催趣意書が発送される予定。

四期の皆さん、今から万障お繰合わせ置き下さることを！(11・23・事務局・関正治・西村典夫)